

大空間冷却で熱中症対策

機械整備工場に導入し効果

大成ロテック

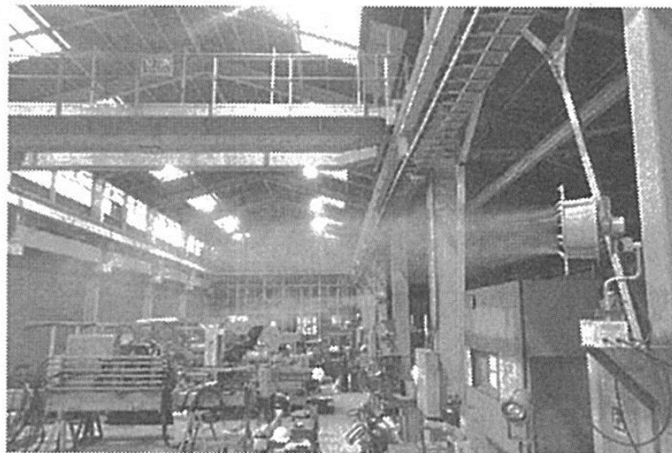
大成ロテックは、熱中症対策として大空間冷却システムを、道路業界で

初めて導入し、埼玉県鴻巣市にある同社機械技術センターで稼働を開始した。写真。

同センターのある鴻巣市は、日本でも記録的な暑さとなる熊谷市に隣接している。大型施工機械を整備するためには大空間が必要であり、かつ、密閉空間ではないことから作業空間の冷房が難しく、従来は、暑さ対策としてスポットクーラーを設置したり、

作業員に送風ジャケットや涼感ヘルメットを配布するなどしていたが、さらなる作業環境改善を図るために大空間冷却システムを導入した。

導入した大空間冷却システムは、送風ファンにより「セミドライフォグ」と呼ばれる粒子径の小さな霧を広範囲へ拡散する冷房装置で、周辺温度を3〜5℃低下させる効果がある。さらに、拡散した



水分のほとんどが気化することから、保管機械・整備機械等に影響を及ぼさないとされている。

作業員からは、「作業環境が格段に改善され涼し

くなった」と好評で、担当者からも「作業員からの評判もよく、熱中症予防に大きな力を発揮している」と評価する声が聞かれている。

相対比較では、工場全体の温度が導入前に比べ3℃程度下がりが、工場に入った瞬間に涼しく感じるようになったという。同社では、今後も引き続き、職場環境の改善を進めていく。